

【近畿農政局長賞：単位収量の部】^{やまだ}山田^{なな}奈々（滋賀県東近江市）

品種	作付面積	単収	地域の単収との差（地域の平均単収）
北陸193号	約2.5ha	728kg/10a	201kg/10a（527kg/10a）※ ※作況補正後の地域の平均単収

【経営概況】

- 家族4人（本人、夫、両親）で農業を経営する兼業農家。
- 水稻専作で、経営面積約4.2ha

【作付品目】

- ・主食用米：夢ごち、滋賀羽二重糯
しがはぶたえもち 約1.7ha
- ・飼料用米：北陸193号 約2.5ha

【取組のきっかけ】

- 小規模集落で離農者が増える中、不作付地解消及び収益増加のため、借地を含む農地において、平成26年産から主食用品種（日本晴）で飼料用米に取り組む。
- 平成27年産から、出荷先の商系事業者（米・資材卸）の薦めもあり、倒伏に強く、多収である北陸193号の栽培に取り組む。

【取組概要】

- 北陸193号は、品種特性を踏まえた十分な生育期間を確保（主食用米より早く定植し遅く収穫）して未熟粒を減らし収量を増加。
- 元肥として窒素分30%の緩効性肥料を田植と同時（GW期間）に通常より少ない30kg/10a程度を施用して初期の生育を抑制。幼穂形成期の少し前（7月13日～16日）に追肥することで株の根張りを向上し粒数を増加。追肥の施肥量は、過去の施肥量と収穫状況を分析・参考とし、ほ場ごとに調整のうえ、安価な単肥（尿素）をほ場ごとに10kg/10a施用。
- 倒伏防止及び根の活性化を図るため、6月中旬に確実な水切り作業と最高分けつ期の直前に十分な落水を実施。
- 生産コスト低減の取組として、疎植を実施すること及び元肥を減らし、減じた分を尿素で補完することでコストを削減。また、育苗は簡易水槽を使い、プール育苗を行うことで、労働時間を低減。
- 防除は省力化のため、育苗箱施用と除草剤の田植7日後散布の2回に低減。
- 収穫後1週間以内に「もみがら」を散布し「わら」と併せてすき込み、12月末までに再度すき込みを行うことで良質な土づくりを実施。



滋賀県

